

神のおとずれ

日本聖公会 神戸教区報



2025年
11月号

発行所

神戸教区事務所

TEL 078(351)5469

FAX 078(382)1095

<https://www.nskk-kobe.org/>



発行責任者

司祭 林 和 広

印刷所

文明堂印刷所

神戸教区主教按手式・就任式



9月20日(土)神戸聖ミカエル大聖堂において、主教按手式・就任式が行われバジル八代智主教が誕生しました。式の中で入江修主教様が説教をしてくださいました。その一部をご紹介します。

神戸教区の管理主教を終えた私は、新たに選出された八代智司祭からの希望で、この按手式の説教に立ちます。光

栄であると同時にその重さを感じますが、イエスの「わたしの軛は負いやすい」という言葉を胸に、説教の務めを果たします。

今日の福音書で、復活したイエスはユダヤ人を恐れ家に籠る弟子たちに現れ、「平和があるように」と言われました。弟子たちは主を見て喜んだとあります。この平和とは、喜びと幸いをもたらすもので

す。しかし平和は、一方だけでは成り立たず、関わる者すべてが互いに平和であって初めて実現します。一方的な喜びの追求が他者に苦しみを与えるなら、それは真の平和ではありません。

神による平和とは、いかなる困難にあっても、神の御心を自らの喜びとして受け入れることです。それは恐れの中で「お言葉どおりこの身になりますように」と応えた聖母マリアや、全てを失っても「主の御名は褒め称えられよ」と神を賛美したヨブの姿に示されます。私たちの信仰生活とは、パウロが言うように「いつも喜び、絶えず祈り、どんなことにも感謝しなさい」という、神が私たちに望んでおられる生き方をするようになります。

主教の務めは、このキリストの平和と祝福を人々に与える「僕」としての奉仕です。司祭を立てて遣わし、彼らと共に人々に仕えます。この重責を担い続けるには、どのような悲しみの中でも神にあって喜び、祈りが聞かれないと



感じる時も祈り続け、神に感謝することが常に求められます。キリストが与えてくださった平和は、どんな苦悩の中にあっても私たちが決して離れ去ることはないからです。

私自身、按手された時、その重責を前に心から「おめでとう」という言葉を受け止められませんでした。だからこそ、八代司祭にフィリピの信徒への手紙の言葉を贈ります。「あなたがたには、キリストを信じることでだけでなく、キリストのために苦しむことも、恵みとして与えられています。」

この苦しみを神による恵みとして受け入れる中で、キリストの平和はさらに豊かな喜びと幸いをもたらすでしょう。新主教がその職務を最後まで全うできるよう、聖霊の導きと励ましを祈り、神戸教区、日本聖公会、そして全ての教会の皆様と共に、心から「おめでとう」と申し上げます。

「按手式説教より」

召命黙想会に参加して

ヒッポのオーガスチン 立川 亮

9月22、23日に山口県の徳山聖マリア教会にて開催された召命黙想会に参加しました。去年に続き2回目の参加です。今年は瀬山公一司祭から聖書のいくつかの内容について解説いただき、その後はほとんど自由に黙想をしました。礼拝や食事の時以外は原則「沈黙」を守り、神様と対話します。

黙想のテーマとしては、ヨ

ハネ福音書6章「五千人に食べ物を与える」が与えられました。私は「神様からの恵みは有り余るほど豊かに注がれる」という解釈をしました。弟子はたった2匹の魚と5つのパンしか用意できません。しかしイエス様は皆を満腹させた上に、余ったパン屑だけで12の籠を満杯にする奇跡を行ったからです。一方、司祭は別の視点で解説を下さり、



勇気づけられました。「少しの物しか持っていない人間をも神様は用いて下さる」という内容です。今後自分に何ができるか不安になることもあります。しかし、神様を信じ、感謝し、祈ることで、小さく弱い私であってもより良く用いて下さるだろうと思うことができました。

また今回は自由な時間が多く、長い時間黙想し続けられるか最初は不安でした。しか

し結果的には物足りないくらい豊かな時間となりました。黙想したい個人的な召命に関するテーマがあったからです。その最終的な答えにまでは到達できなかったものの、その道筋を立てることはできました。今後も黙想を続け、神様と対話し、答えが与えられるように祈り続けたいと思います。

（広島復活教会）

青年交流会に参加して

フランチエスコ 八代 良寛

9月14日（日）、15日（月）に開催された青年交流会に参加しました。

14日（日）は神戸昇天教会で多くの料理を囲みながら互いに近況を語り合い、多くの青年たちと交わりのひと時を過ごすことができました。

15日（月）は少し離れた霊園内にある神戸昇天教会所有のこの字型に山に囲われた納骨堂の外壁の清掃、周辺の雑

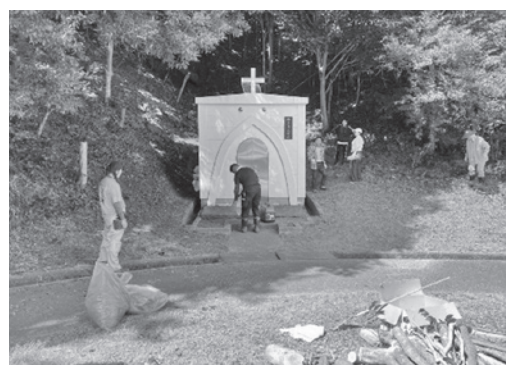
草抜き、納骨堂の周りを覆っていた木の伐採、掘り起こした土を土のう袋に詰め土砂崩れが起きないように地盤を整える作業を行いました。

青年たちと力を合わせて汗を流す中で、奉仕を通して得られる喜びと「仕える」ことの大切さを学ぶことができました。これからも青年活動が交わりの中で互いを支え合い、励まし合い、主にあって

共に成長し、共に信仰を育んでいける場となってほしいと思います。

また静かな場所での作業は、すでに主に召された方々を覚える時にもなりました。スコップを手に土を掘り、この場に眠る方々の人生や信仰に思いを馳せ、自分自身の歩みを振り返るきっかけをいただきました。二日間を通して、交わりと奉仕が得られたことに感謝しています。これからも日々の生活の中で教会や周囲の人々に仕える者として歩んでゆければと思います。

（神戸聖三力エル教会）



「宣教150年記念事業、

はじめました」②

委員長 司祭 バルナバ 瀬山 会治

皆さん、こんにちは。来年2026年は、神戸教区宣教150年を迎え、9月23日(水・祝)には、神戸聖ミカエル大聖堂で記念感謝礼拝が行われる予定です。

今回はその始まりに目を向けてみたいと思います。

「1876年9月21日夜、フォス司祭らに乗せた船は神戸港に着いた。後の『回想録』の中で、彼は次のように記している。『1876年9月21日、聖マタイ日の夜11時ごろ神戸港に着いた。その夜は船に泊まった。翌朝、私を船室まで呼びに来て「起きてください、素晴らしい所ですよ」

と言うプランマーの大きな声で目が覚めた。港から見る背山と町の眺めが素晴らしいかった」(宣教140年史47頁)

神様が創られたこの世界は素晴らしい「良い」ものであったと聖書に記されてあり、150年前に神戸教区に足を踏み入れたフォス・プランマー両司祭もそのことを実感されたようです。

そして、それは今も変わらず、私たちの目の前にあり、私たちの後に続く人びとにも、その素晴らしいさを感じてほしいと願います。そのため私たちは一体、何ができるでしょうか。もちろん、今があるのは神さまへの信仰に生きた先達のお働きが大きくなり、そのことへの感謝を忘れてはなりません。さらに、今までの神さまのみ恵を私たちは喜び、神さまへの賛美とし

てお献げすることが、150年の記念日に相応しいことではないでしょうか。教会でも疲弊した話を耳にしますが、だからこそ神さまへの信仰が、将来への希望となりますように皆さんと一緒に祈りしたいのです。

人権担当者からの報告②

フランツ 東 弘彦(神戸聖ヨハネ教会)



自分にとって、部落差別は活発な団体が活動し、また報道で取り上げられることもあり、それなりに身近なものでありましたが、ハンセン病についてはほぼ無知でした。知ることは大切です。今回の研修で学んだ歴史的経緯、隔離・強制収容による移動の自由のはく奪、婚姻・妊娠・出産の制約、家族との別離、改名を余儀なくされるなど様々なことを目の当たりにすることで、あ、これは人権問題だと認識しました。また、担当者会での意見・

情報交換では、東北の震災、原発の問題などについても発言がありました。震災の被災地への補助金に差があることによる地域的な反目など、新たな問題が生じているということも仄聞しました。また、原子力発電所で働く人や自衛官などへの意識の問題など、立場によって対立する見方が存在します。人権問題は限りが無いと思いました。

と「自由」と「平等」というように整理されます。部落問題もハンセン病問題も差別問題として捉えられます。差別によって「平等」「権利」「自由」が損なわれるから、人権問題となります。人権の損なわれ方はさまざまですが、例えば部落差別は歴史的に為政者によって作り上げられ、原則的に変えられない上下の身分制度に組み込まれていました。その意味で、現代社会においては法や行政によって差別を解消され、人権が再び損なわれることのないように守られるべきものです。

一方で、差別意識は人々の心に深く根を張り続けているものでもあります。

ことに、部落差別や外国人や先住民などへの差別、学歴や性に関わる差別などは、身の人間の身近なところに存在するものであるだけに厄介です。建てまえ的に押さえつけると隠微に潜行し、存在し続けることになると思います。

鳩だより

《敬称略》

祝 洗 礼

9月30日（火）

ステパノ 石崎 博隆
松山聖アンデレ教会

祝 堅 信

9月28日（日）

リディア 伊藤 喜美子
イザベラ 河野 佐知子
シエナのカタリナ
三崎 百合子
神戸聖ミカエル教会

教 籍 移 動

8月17日（日）

サムエル 高倉 一彰
米子聖ニコラス教会から
久留米聖公会へ

祝 聖 婚

9月23日（火）

クリスティーナ 鈴木 健太郎
八代 優
神戸聖ミカエル教会

《社会部記事》

南海トラフ地震に備えて

今回から、災害非常持ち出し袋の話をしようと思います。1回目は食料品です。

国は、「食料品には賞味期限の問題があるので、ローリ



ングストックをしましょう」と言います。ローリングストックとは、蓄える↓食べながら常に一定量の食品を備蓄する方法のことで、予め多めに保存出来る食料品を買っておき、賞味期限が来た物から消費していきつつ、新しいものを購入して備蓄していくやり方です。

しかし私は何度か賞味期限切れという失敗をしてしまいました。そこで、神戸聖ヨハ

ネ教会では、教会でお金を集め、食料品を一括購入し、それぞれの家庭で保管してもらい、賞味期限前にまたお金を集め、次の食品を購入するという、教会内ローリングストックを始めたいです。

これだと一括購入で少し安く仕入れることが出来、賞味期限を複数で管理出来、何より防災の意識を共に持つ事が出来る点です。皆さんも一度やってみませんか。

（司祭イサク 坪井 智）

12月の教区関係教役者
逝去記念聖餐式

日時 2025年12月4日（木）午前10：30

場所 神戸聖ミカエル大聖堂

司式 主教 八代 智

説教 執事 宮田 裕三

どなたでもいらしてください

＊12月の記念逝去教役者

2日	主 教	チャニング	ウィリアムズ
2日	司 祭	ヨハネ	長 崎 泉
4日	司 祭	アンデレ	小笠原 三 郎
5日	伝道師		森 慶 三
5日	司 祭	テモテ	岩 井 祐 彦
10日	司 祭	パウロ	島 田 信
10日	伝道師	パウロ	大 石 虎太郎
10日	司 祭	ワレン	ボールドウィン
14日	宣教師	イブリン	プレ ス ト ン
14日	司 祭		水 野 功
14日	司 祭	ペテロ	貫 主 税
14日	伝道師		武 田 頼 夫
16日	司 祭		尾 形 虎 三
16日	伝道師		園 田 千 代
19日	宣教師	マリー	ホ ー ム ズ
19日	宣教師	M. H.	コンウォール・リー
19日	伝道師		森 トメキ
19日	伝道師	アグネス	佐 藤 富 子
20日	宣教師	ハナ	ス コ ッ ト
21日	司 祭	ペテロ	加 藤 九十九
25日	伝道師	マリヤ	永 沼 輝 子
29日	司 祭	マルコ	伊 崎 八 束
30日	宣教師	オードリー	ヘ ン テ
31日	司 祭	マルコ	杉 野 貢

